

長与町GIGAスクール構想の実現に向けて

令和3年3月5日
長与町教育委員会

長与町GIGAスクール構想(Nagayo GIGA Box Plan)についてお知らせします。

①長与町GIGAスクール構想(Nagayo GIGA Box Plan)について

文部科学省から「GIGA スクール構想の実現」として段階的に「1人1台端末」の整備等を行うことになり整備を進めています。

令和3年4月から、長与町内小中学校の全児童生徒約3600名にタブレット端末が貸与されます。タブレット端末については、家庭への持ち帰りを想定し、オフライン環境も含めて、全ての児童生徒の活用を考え設定を行っていきます。また、子供たち一人一人に対して、資質・能力がより確実に育成できる教育環境を実現することや、これまでの教育実践と最先端のICTとの最適な組み合わせにより児童生徒の力を引き出すことができるように運用設計していきます。

長与町のGIGAスクール構想を「Nagayo GIGA Box Plan」とし、長与町のめざす児童・生徒像である、**かしこい頭を** **やさしい心を** **たくましい体を** **地域で子供を** の実現を目指し、長与町全体で協力して取り組んでいきます。

②端末の導入について

令和2年度内に整備を完了する予定です。令和3年度から本格的に運用します。日程は遅れる場合があります。準備が整いましたら、端末使用の同意書を配布いたしますので、「Nagayo GIGA Box Plan」の趣旨をご理解いただき同意いただければと思います。

時期	3月初旬頃～	4月～	9月頃～
	準備の期間	使用に慣れる期間	使用を工夫する期間
予定	小・中学校で試験運用開始	小・中学校で本格運用開始 主に基本操作による使用	クラウドサービスを利用した学習の活用
備考	端末の使用についての授業	持ち帰りについては、令和3年度になってからお知らせします。持ち帰りの実施時期・実施学年や頻度は、発達段階や学校の実態に応じて判断します。	

③学習道具としての「一人」台端末

各教科との指導でICTを学習道具として活用することで、子どもたちの学習への興味・関心を高め、わかりやすい授業や、「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けたよりよい環境をつくっていきます。

A 一斉学習	B 個別学習	C 協働学習
<p>押絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となります。</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った速度で学習することが容易となります。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となります。</p>	<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となります。</p>
<p>A1: 教員による教材の提示</p>  <p>画像の拡大表示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>B1: 個に応じる学習</p>  <p>一人一人の理解の程度等に応じた学習</p> <p>B2: 調査活動</p>  <p>インターネットを用いた調査・収集、学習や調査等による記録</p>	<p>C1: 発表や話し合い</p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p> <p>C2: 協働での意見整理</p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
<p>B3: 思考を深める学習</p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>B4: 表現・制作</p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p> <p>B5: 家庭学習</p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p>C3: 協働制作</p>  <p>各自の持ち寄りによる共同制作</p> <p>C4: 学校の壁を越えた学習</p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

※文部科学省「学びのイノベーション事業」より

④G Suite for Education の利用について

Google 社が教育機関向けに無償で提供しているクラウド型学習支援ツールです。データやアプリケーションは、クラウド上にある Google 社のサーバに保存されており、各自がそこに接続して学習します。

アプリケーションには、同時編集で協働学習を支援するワープロや表計算、図形描画、プレゼンテーション、ホワイトボードの機能を有するものや、仮想の学級で教師と子供がコミュニケーションを図る Classroom、オンラインビデオ会議 Meet などがあり、各機能が連携して学習を効果的に支援してくれます。仮想の学級 Classroom では、学級担任や教科担任が授業の部屋を設定し、そこに学級の子供たちが所属します。

教師は、この Classroom の中で、資料や学習課題、小テスト、アンケートなどを配付し、子供たちは資料等を受け取り、画面で確認します。

現在、紙のプリントを配付していますが、これを電子データで配付できるように準備を進めています。電子データなので、カラーで配付することができ、必要な部分は各自が拡大して確認することもできます。データは無制限で保存できるため、いつでも見返すことができます。

タブレット端末で全ての学習を行うわけではありません。これまでの指導と融合させながら、有効な取り組みを研究・推進していきます。